愛知教育大学大学院　令和元年度修士論文抄録

現代の歌詞と雑誌からみる当て字の用法の研究
―出現する当て字の特徴の分類を中心に―

発達教育科学専攻　日本語教育領域
髙木春佳

キーワード：当て字、文字表記、表現効果

1. はじめに

「卑弥呼」や「舎加」などのように日本語に漢字を音で当てることは奈良朝以前から行われており、現代でも漫画や小説、インターネットなど様々な媒体で「本気」のような当て字が見られる。先行研究では「当て字」の歴史的変遷について述べられているものは多いが、現代の当て字が多く見られる漫画や歌詞などの当て字研究は少なく、どのように当て字が用いられるのかは明らかになっていない。また、本研究で調査対象に選んだうちの一つである歌詞の当て字では、慣用的な当て字と臨時的な当て字が確認されているが、両者にどのような違いがあるのか、また他の資料媒体では見られない慣用的な当て字がなぜ歌詞では見られるのかについては言及がされていない。そこで、抽出調査を行い、出現した当て字を用法ごとに整理、比較をすることで、歌詞や雑誌、さらに筆者が卒業研究で取り扱った小説や漫画と共通する当て字の用法は見られるのか、歌詞に見られる慣用的な当て字と臨時的な当て字の違いを中心に調査で明らかにしていきたい。

古くから行われてきた当て字は、日本語の表記をより豊かにし、時には「秋桜」のような新たな表記を生み出してきた。当て字を研究することで、日本語の漢字の造語力や表記の定着のしやすさを明らかにすることができると考えている。

2. 当て字の定義

当て字は中国の文字である漢字を中国語以外の国語にあてた場合と、漢字の字音・字訓や字義を異なる仕方で用いる場合のことをいう。前者は例えば、日本語の「ヤマ」を「山」と表記することで、漢字本来の字義・用法と対応関係があることから、<正字表記>と呼ばれる。これは広義のあて字ではあるが、一般に「当て字」と呼ばれるものではない。一般に「当て字」と呼ばれるのは後者の方で、例えば「あけび」を「山女」と表記することが挙げられる。これは<借字表記>と呼ばれ、狭義の当て字である。本研究で対象とするのは、狭義の当て字のみとする。

上記の定義から考えると、「今日(きょう)」や「真面目(まじめ)」のようなものも、漢字一字一字の意味や音と必ずしも直接対応関係があるわけではないため、狭義の当て字に含まれる。しかし、これらのように、二字以上の漢字で一語を表した「熟字訓」と呼ばれるものは、読みの併記が不要であるぐらいに、語の音と表記の熟字の結びつきが広く一般に浸透しているため、本研究では当て字とはみなさない。また、笹原(2010)では「4649(よろしく)」や「本田△(ほんださんカッケー)(カッコイイ)」のような、漢字以外の文字種を利用した当て字に準じた代用的な表記も見られると述べられていたが、これらも当て字とはみなさない。

3. 先行研究

本研究では、調査で分類をする際に参考にした白勢(2012)について取り扱う。

白勢(2012)は現代漫画において当て字がどのように用いられているかを調査した。調査対象は、2011 年 4 月から 6 月の 3 ヵ月間に発行された少年誌 2 誌、青年誌 2 誌、少女誌 3 誌、女性誌 2 誌の計 9 誌に掲載された漫画である。なお、ルビが人名、地名、建物名などの固有名詞の読みを示すものは対象外としている。また、語表記が漢字だけに限らず、笹原(2010)が挙げた、「4649(よろしく)」のような漢字以外の代用的な表記も当て字として調査対象に含まれている。白勢(2012)は、上記の対象に出現した当て字を用法ごとに以下の 7 つに分類した。

①口語の読みを示す・・・・・・・・・・悪(わ)りィ、してない(して)ってこと(ねってこど)でしょう(だべ)
②外来語の読みを示す・・・・・・・・・質(クオリティ)、開始(スタート)
③英語の略表記の読みを示す・・・・・・G K(ゴールキーパー)、H・R(ホームルーム)
④スポーツ用語・・・・・・・・・・・・1対1(ワンオンワン)、笛(ホイッスル)
⑤代名詞・・・・・・・・・・・・・・・高木(あいつ)、喫煙所(あそこ)
⑥言い換え表現・・・・・・・・・・・・目撃情報(タレコミ)、大財閥(ケタチガイ)
⑦作品固有の表現・・・・・・・・・・・燭の道(アポロン・ロード)、其はただ焼き尽くす者(シント・ソールム・インケンデンテース)

漫画では、②、④、⑥のような同義や類似した語を当てたり、⑦のような実在しない語に対して在来の語を当てたりすることで意味を明示する機能、⑤、⑥のような複数の意味をもつ語や代名詞に対して文中における意味を特定する機能、①、③のような書き言葉と話し言葉の同義の異表現を統一して表現する機能の 4 つが見られると述べられていた。

4. 調査概要

本研究では第 2 章の定義を基に、歌詞と雑誌に出現する当て字を抽出し、用法ごとに分類した。調査対象の歌詞については、歌詞検索ソフト「Lyrics Master」を用いて、平成(1989 年～2018 年)の年間シングルランキング上位 10 位以内にランクインする楽曲の歌詞計 324 曲、当て字がよくみられると言われる桑田佳祐の作詞楽曲の歌詞計 358 曲、水樹奈々の作

詞楽曲の歌詞計 69 曲に出現した当て字を調査した。また雑誌については、1994 年発刊の月刊雑誌 70 誌を対象に現代の言葉の用語・用字を抽出し、まとめた国立国語研究所(2006)『現代雑誌 200 万字言語調査語彙表』に出現した当て字を調査した。なお、分類は白勢(2012)を参考に、複数の意味を持つ語に対して意味を特定している「特定」の用法、同義や類似の語をあてて意味を拡充している「二重」の用法、外来語を、和語や漢語で表記することによって意味を連想しやすくさせている「訳語」の用法の 3 つと、これらに当てはまらないものを「その他」に分けた。例えば、「特定」の用法の例として、「消費(つか)う」や挙げられる。「二重」の用法には、「戦争(いくさ)」のように同義や類似の語があてられているものだけでなく、「過去(よる)」のような元の語とは全く別の意味の語を表記にあてているものも一緒に分類した。後者も 2 つの語の意味やイメージを同時に想起させるという点が共通しているからである。また「想像(イメージ)」のような、語が外来語であり、表記で意味を連想させやすくしているものは「訳語」の用法に分類した。これらを分類し整理することで、歌詞や雑誌において、当て字がどのような要素を重視して用いられているのかを明らかにした。また複数のアーティストや複数の雑誌に見られた当て字を慣用的な当て字とみなし、そうでないものは臨時的な当て字とし、表記の語と読みの語の意味や共通点を検討することで、慣用的な当て字と臨時的な当て字の違いについて明らかにした。

5. 調査結果

雑誌の当て字では、古くから使われている当て字以外は、どれも臨時的な当て字ばかりで、特に表記が造語である当て字が多く見られた。歌詞では、よく歌詞に使われている語には慣用的な当て字があり、それ以外は臨時的な当て字であることが多かった。

5.1. 雑誌の当て字

70 誌のうち、出現した当て字の総数は、異なり語数 38 語、延べ語数 112 語だった。表中の括弧内の割合は総数比を表す。

表 1「現代雑誌における当て字の用法別出現数」

用法	異なり語数	延べ語数
①特定	4 (11%)	38 (34%)
②二重	10 (26%)	15 (13%)
③訳語	5 (13%)	33 (29%)
④その他	19 (50%)	26 (23%)
総数	38	112

それぞれ、用法別に見ていくと、以下のような例が挙げられる。

① 招(よ)ぶ　(国立国語研究所(2006)「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」)
② 機巧(からくり)　(同上)
③ 女中(メイド)　(同上)
④ 酢(ス)ペシャル　(同上)

①は特定の用法であり、「よぶ」という語には複数の意味が考えられる。例えば、「名づける、称する」と言う意味であったり、「相手に向かって声をあげて名前などを言う」というような意味であったり、「引き寄せる、まねく」という意味などが挙げられる。これらの意味に対して「招」という表記がされることによって、「よぶ」という語が「引き寄せる、まねく」の意味であると特定することができる。②は二重の用法である。「からくり」と似たような語義関係にある「機巧」という語を表記にすることで、元の「からくり」という語に「機巧」の意味やイメージを拡充する。③は訳語の用法で、「メイド」という外来語に対し、「女中」という既存の語をあてることで、「メイド」の意味を表わしていたり、推測させやすくしていたりしている。④はその他の用法に分類した中でも最もよく見られた「造語」の用法である。「スペシャル」という語の「ス」の部分だけに「酢」という漢字があてられている。単語だけを見れば、これは漢字の音の面を利用しただけのものだと言えるが、前後の文脈で「酢」を使った何か「特別な」ものである、というようなことが述べられていれば、意味の面も利用したものだとも言える。今回の調査では、そこまでは明らかに出来なかった。

雑誌における当て字を用法別に見ていくと、古くからある「倶楽部(くらぶ)」や「洒落(しゃれ)」、「硝子(がらす)」、「煙草(たばこ)」のような当て字は出現数が多かったものの、それ以外はほとんどが 1 例しか見られず、どれも臨時的な当て字であった。もっともよく使われていた造語の用法では、既存の語に対し、表記の漢字の音の面がよく利用されていた。

5.2. 歌詞の当て字

本稿では、平成のヒットソングの歌詞における当て字の調査結果について取り扱う。計 324 曲のうち、出現した当て字の総数は、異なり語数 70 語、延べ語数 222 語だった。表中の括弧内の割合は総数比を表す。

表 2「平成ヒットソングの歌詞における当て字の用法別出現数」

用法	異なり語数	延べ語数
①特定	30 (43%)	115 (52%)
②二重	32 (46%)	88 (40%)
③訳語	6 (9%)	14 (6%)
④その他	2 (3%)	5 (2%)
総数	70	222

それぞれ、用法別に見ていくと、以下のような例が挙げられる。

① 理由(わけ)　(TAKURO (1998)「誘惑」)
② 愛(ひかり)　(上杉昇・中山美穂(1993)「世界中の誰よりきっと」)
③ 電話(テレフォン)　(桑田佳祐(2003)「涙の海で抱かれたい～SEA OF LOVE～」)
④ 童(わ)っぱ　(桑田佳祐(1996)「愛の言霊～Spiritual Message」)

①は特定の用法で、複数の意味が考えられる語に対して表記の「理由」によって、意味を特定しているものである。②は二重の用法である。5.1 の②とは違い、「ひかり」という語と「愛」という表記の語には、語義関係がないが、元の語と全く別の語を表記にあてることによって、2 つの語の意味やイメージを同時に想起させる複線的な表現効果をもっている。平成のヒットソングの方でも 5.1 の②のような類似の語義関係のある語を表記することで元の語の意味やイメージを拡充するものは見られた。③は訳語の用法である。筆者が卒業研究で取り扱った小説や漫画の当て字と違ってこの用法の出現数はかなり少なく、アルファベットや片仮名表記されることの方が多かった。その理由としては、歌詞が小説や漫画と違って横書きであることが多い、ということが挙げられると考えられる。④は白勢(2012)の用法の「①口語の読みを示す」に近い用法で、「わっぱ」という語の「わ」の音のみ、「童」という漢字表記がされている。「わっぱ」という語は「子ども」という意味の「わらべ」の音変化の形であるため、表記によって意味が明示されていると考えられる。確認されたもう 1 例も同様に「おいら」という語に「俺ら」と表記がされているのは、「おいら」という語が一人称単数の「俺ら」という意味であることを明示しているからだと考えられる。

また、平成のヒットソングにおいて、「ひと」や「しあわせ」などの歌詞に良く使われていた語は「女性(ひと)」や「幸福(しあわせ)」のように、複数の楽曲で当て字がみられた。特に「幸福(しあわせ)」のような 5.1 の②にあたる用法は歌詞の慣用的な当て字で最もよく見られた用法だった。

6. まとめ・研究課題

5.1 より、雑誌の当て字については、同義や類似の語をあてて、意味を特定したり、元の語の意味を拡充したりする、意味を重視するものと、既存の語と共通する音を持つ漢字をあてる音を考慮したものが同程度使われている。「倶楽部(くらぶ)」や「硝子(ガラス)」のように古くからある当て字以外はほぼ臨時的な当て字である。

また、5.2 より、歌詞の当て字についても、雑誌同様に同義や類似の語をあてて、意味を特定したり、元の語の意味を拡充したりする意味を重視するものが見られるほか、同じく意味を重視するものではあるが、全く語義関係のない語をあてて 2 つの語の意味を同時に想起させるものもある。雑誌とは違い、音よりも意味を重視した当て字の方が多く、慣用的な当て字がいくつ見られる。その特徴として、読みにあたる語が歌詞において 1 つの曲に限

らず複数の曲であったり、複数の作詞者によってよく使われる言葉であることと、その出現頻度の高い語は複数の意味やイメージが考えられるという曖昧性があり、あてられる表記が同義や類似の語であることが挙げられる。このことから、歌詞の臨時的な当て字はそもそも読みの語自体の出現頻度が低かったり、読みの語と表記の乖離が大きいものであると言える。

以上より、雑誌の当て字と歌詞の当て字に共通して見られるものについて、複数の意味やイメージを持つ語に対して、表記で意味やイメージを特定する特定の用法、同義・類似の語や語義関係のない語を表記にあてて、元の語に対して意味の拡充や補足をしている二重の用法がある。これらの用法は筆者の卒業研究の小説、漫画の当て字においてもよく見られた用法であることから、当て字の主要な機能であると言える。特に、二重の用法は、似たような意味の表記をあてる時には、元の語の意味やイメージを拡充する重層的な表現効果を持ち、語義関係のない語を表記にあてる時には、2つの語の意味を同時に想起させる複線的な表現効果を持つ。また、外来語を和語や漢語で表記することによって意味を連想しやすくする訳語の用法も見られるが、現代では外来語の表記は原則片仮名で行われることや横書きで書きあらわされることが多い歌詞や雑誌は漢字による表記よりも、片仮名やアルファベットが選択されやすいことから、その使用頻度はあまり高くない。

表記の造語には、5.1の④のような漢字の意味の面を特に重視して一字一字を組み合わせて既存の語や造語を表記しているものや、「現代人諸君（イマジンオールザピープル）」のような複数の熟語を組み合わせて一つの語を表記しているものが見られた。しかし、表記の造語はごくわずかしか見られず、どれも個人レベルの使用に止まっている。表記の定着のしやすさについては、臨時的な当て字の多くが元の語と表記の語の意味の乖離が激しいものであり、慣用的な当て字の多くが元の語と表記の語の意味が類似しているものであることから、2つの語の意味が近ければ近いほど、表記として選択されやすくなると予想しているが、どの程度の意味の近さのものが定着のしやすい当て字であるのかについては調査し切れていないため、さらなる調査研究が望まれる。

【主要な参考研究】

今野真二　(2009)『振仮名の歴史』22-34、集英社
笹原宏之編 (2010)『当て字・当て読み漢字表現辞典』三省堂
白勢彩子 (2012)「「当て字」の現代用法について」『東京学芸大学紀要. 人文社会科学系』Ⅰ、63:103-108、東京学芸大学学術情報委員会
杉本つとむ (2018)『宛字百景―漢字と日本語の結び目をときほぐす』八坂書房
田島優 (2017)『「あて字」の日本語史』風媒社
山田敏弘 (2018)「いきものがかりの言語学6：当て字」『岐阜大学教育学部研究報告. 人文科学』、67(1):11-20、岐阜大学教育学部

国立国語研究所コーパス開発センター(2006)「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」公開版(ver.1.0) (2020 年 2 月 2 日　最終アクセス)
https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/mag200.html